



□会場 東洋英和女学院大学大学院 (六本木) 201 教室 □最寄駅 六本木駅 (日比谷線徒歩10分) □参加費 各回 500 円
麻布十番駅 (大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分) 本学院在校生・教職員無料
東京都港区六本木 5-14-40 □先着 100 名様 □事前申込み 不要

第1回 連続講座

4月13日 (土)
14:40-16:10 (受付 14:00 から)

■プロフィール

東京大学教養学部、同大学院で科学史・科学哲学を学ぶ。上智大学理工学部助手、助教授、東京大学教養学部助教授、教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、センター長、国際基督教大学教養学部教授、同オスマー記念科学特別教授、東京理科大学大学院科学教育研究科科長などを経て、2010年から現職。

■主要業績

今回の講演に関係のある著書として、『生と死への眼差し』(青土社)、『生命を語る視座』(NTT出版)など。

村上陽一郎

(むらかみ よういちろう) 本学学長

現代における再生医療

内容紹介

哺乳動物では難しいとされた核移植によるクローンが、ヒツジで成功したのは1997年のことである。哺乳動物の一種であるヒトにも適用される可能性が高まった。いわば個体の再生の可能性とも言える。翌年、ヒトの胚性幹細胞(E S細胞)の樹立が報告され、組織や器官の再生が期待されるようになった。ヒトE S細胞の樹立には、当然ヒトの胚が必要になることが、倫理上の問題を生んだ。それを克服できると思われるのが、i P S細胞である。生殖技術の発展と相まって、現代は驚異的な再生技術の高みにある。そのあらましと問題点とを考えてみたい。

第2回 連続講座

4月13日 (土)
16:20-17:50

■プロフィール

1961年生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修了(文学修士)、神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程修了(学術博士)。専門は身体表現論、舞踏学。子どもの身体表現の支援、精神科入院病棟でダンスセラピー等を実践。1998年に「みんなのダンスフィールド」を開始。年齢、性別、障害の有無等を越えて、表現を共に創る活動を地域社会で展開。お茶の水女子大学助手、学習院大学講師、本学准教授を経て2004年から現職。国立民族学博物館特別客員教員・教授(2008~2011年度)、早稲田大学理工学術院客員教授(2008~)。

■主要業績

「出会いと共振—「共振する身体」から「共振する生命」へ」『死生学年報 2012 生者と死者の交流』リトン 2012年。「表現するからだ：共創の原初、未来への跳躍」『計測と制御』51/11 計測自動制御学会 2012年ほか。

西 洋子

(にし ひろこ)

本学人間科学部
教授

共創の原初、未来への跳躍

—被災地域での身体表現活動の試み

内容紹介

この1年間、月に1度の割合で、宮城県の東松島市や石巻市に伺い、被災地域の方々とともに共創的な身体表現活動を継続してきた。幼児から高齢者まで、障害のある人々を含む多様な身体が集う場合は、人と人が出会い、世界を創り合う原初を、それぞれの身体に呼び覚まし得たであろうか。果たしてそれは、社会的な共創へと連なり得るものであったろうか……。被災地域と関東とを表現でつなぐ活動を、ワークショップに参加された人々の姿とともに紹介しながら、新たな試みの“これまで”と“これから”を考えてみたい。

東洋英和女学院大学 死生学研究所編 (リトン刊)

『死生学年報 2012 生者と死者の交流』

定価 2,500 円 + 税 一般書店でご注文・ご購入いただけます

[お問合せ先]

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax 専用)